

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第2回 相模原市教育振興計画策定委員会		
事務局 (担当課)		教育局教育総務室 電話042-769-8280(直通)		
開催日時		平成30年11月13日(火) 午前10時00分から午前12時00分まで		
開催場所		ユニコムプラザさがみはら セミナールーム		
出席者	委員等	17人(別紙のとおり)		
	事務局	17人(教育局長他16人)		
公開の可否		可	不可	一部不可
		傍聴者数		1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		議題 1 開会 2 基本理念について 3 基本目標について 4 その他 5 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員長の発言、 は委員等、 は事務局の発言)

1 開会

2 基本理念について

背景(案)と設計図(案)についての意見・質問をお願いします。背景の記述にある超スマート社会は既に進行しており、AIの普及が来年度の銀行の新卒募集人数の大幅減などに表れている。新たな基本理念は現行計画よりも具体的になっている。

「2030年以降の社会の変化」は一般論であるため、相模原市の変化も入れてはどうか。例えば、リニア中央新幹線の新駅が橋本駅付近に設置されることや圏央道の完成など、今後、全国の物流や人の流れの結節点になることが挙げられる。また、他県他市の人が相模原市での子育てを考えるような魅力ある教育を展開して欲しい。

「今日的な課題」の中に、相模原市の大きな課題である特別支援教育に関する強いメッセージがあった方が良いのではないかと。また、「基本理念」において、皆が共に支え合って生きていくということがもう少し伝わるようにしてもらいたい。

特別支援教育をもっと前に押し出すべきという趣旨の御意見と理解したが、共生については、「目指す人間像」における「協働」に含まれると思うが、弱いか。

「目指す人間像」にある「自立」というキーワードは共生と対立概念になり得るので、誤解を生まないような注意が必要である。

基本理念とそれを具現化する基本目標は両面から考えていく方がよい。また、「今日的な課題」の中に、教育環境の整備を追加してはどうか。

「今日的な課題」の地域コミュニティの希薄化は重要な課題であるため、具体的な内容も追加してはどうか。

教員が子どもの教育に専念できるよう、地域や保護者が研修などを通じて必要な知識等を習得し、学校をサポートする体制を整備していくことが大事である。

選挙権年齢が引き下げとなる中で、子どもの模範となるような大人が、自身のキャリアを伝えたり、社会の見方を教えることが今後重要である。

人の成長を考えた時に、中流社会から格差社会、低成長社会、定常型社会に変化していることは押さえる必要がある。また、家庭の教育力は低下している訳ではなく、消費文化の中で家庭外のものに代替されているように思うが、今後は共生・協働の子育てが求められる。さらに、学校はプラットフォームとされているが、教員の多忙化解消など、教員がより子どもに目を向けることができるような体制を整備する必要がある。

不登校・引きこもりは家庭の問題という説があるが、それが家庭を追い込んでいるように思う。家庭の責任論というよりは、むしろ家庭教育を補完する仕組みがなくなってきたのではないかと考えている。

「協働」を進めていく中では、親としての自覚も必要である。

学校がプラットフォームであることに異論はないが、学校への要望が多様化する中で、学校が対応しきれないことについて、それぞれの役割を明確化することが必要である。

「基本的な考え方」に「温かさと先進性のある施策」と「生涯にわたる一人ひとりの「可能性」と「チャンス」を最大化」とあるが考え方を教えて欲しい。

「温かさ」と「先進性」とは、具体的な施策を展開する際に留意すべき考え方であり、「可能性」と「チャンス」の最大化とは、展開した施策により実現される状態を指す考え方である。

「温かさ」という言葉は、様々に解釈できるので、基本方針や施策で明確化されるとよい。教員の多忙化は今日的な課題として強調すべきと考える。これが改善されないと、教員は子どもに向き合うのが難しい。

教育環境の整備、教員の多忙化、地域がどのように学校をサポートするか等、検討していく必要があるが、総花的にならないように焦点を絞って検討する。

3 基本目標について

基本目標 1 の中に 2 つ追加して欲しい。1 つ目は、学んだことは社会に還元するということを明確にするため、背景【個別】の末尾を「自己実現でき、さらに社会貢献できる人材」としてはどうか。2 つ目は、基本理念にある「広く想像し、深く思考し」を受けて、施策の方向性に、論理的に考える、自分の頭で考えるという趣旨の言葉を追記してはどうか。

基本目標 1 において、他国の文化等を理解するには、自国のものを理解している必要があるため、その趣旨を記載すべき。

基本目標 1 の施策の方向性【全般】において、幼児期は確かな学力というよりも、豊かな心や健やかな体を育てるといような記載がよいのではないか。

相模原市は自然と人々の豊かさが強みであるので、遊びと自然の充実を大切にされた方がよい。学力向上も重要だが、挑戦する心や自尊感情を育てることも重要である。

基本目標 2 において、学校を支援するためには、持続可能な人材育成の仕組みづくりが重要と考える。仕組みづくりは簡単ではないが、一度つくれば様々な面において効果がある。コミュニケーション能力はもちろん、人と関わる力の育成も重要である。また、グローバル人材の育成は重要であり、世界的視野を持ち、地球環境を意識できる人になって欲しい。これまで話題になった課題に対応するためには、SDGs（持続可能な開発目標）を意識してはどうか。

どのような社会をつくり、どのような人材を育成するかという視点は必要かもしれない。教員の長時間勤務については、教員が教育に専念できる体制をつくるということを明確にした方がよい。

基本目標 1 の施策の方向性 について、グローバルな人材育成については、英語教育でのみ達成するように見えるが、自国の文化を理解することや自分の意見を持つことなどが前提になることを盛り込んでどうか。また、基本目標 3 の施策の方向性 について、防災・防犯対策はハード面だけでなく、安全の啓発などソフト面も盛り込んでどうか。

特別支援教育については基本目標 1 に記載があると思うが、子どもが学校ではなく地域にいるときに支える仕組みが重要である。また、基本目標 2 の「オール相模原」には特別支援学校も含まれると思うのでよい表現だと思う。

基本目標 1 の生涯にわたる学びについて、高校・大学や大人も含まれるのであれば、それがより明確になるとよい。

基本目標1では、知識、ノウハウ、スキルの獲得が強く打ち出されているが、これらをどのように利用するか考えることが重要である。特に生涯学習・社会教育においては、埋もれている多様な学びの要求をどのように掘り起こすのか考えていかななくてはならない。また、教育機会確保法と相模原市がどう向き合うのか、多様な価値観による多様な学びの場の確保をどのようにしていくのかは重要な課題である。さらに、教育の市場化とどのように向き合うかも大切だ。

今回の事務局案にアンケート結果は反映されているのか。

今回は基本理念と基本目標に関するものなので、アンケート結果を直接的に反映できる箇所は少ない。アンケート結果は主に個別施策に反映していくことを想定している。

4 その他

本日の内容に対する追加意見は、11月20日(火)までにEメール又はFAXで事務局宛に御提出いただきたい。

5 閉会

以上

相模原市教育振興計画策定委員会委員等 出欠席名簿

(平成30年11月13日開催)

	氏名	所属等	出欠席	備考
1	飯島 沙織	特定非営利活動法人相模原ライズ・アスリート・クラブ クラブマネージャー	出席	
2	大貫 勲	相模原市立大沢公民館 館長	出席	
3	大貫 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会 副会長	出席	
4	後藤 直樹	神奈川県立麻溝台高等学校 校長	出席	
5	小橋 隆司	株式会社デスケル 代表取締役	出席	
6	酒井 朗	上智大学 教授	出席	委員長
7	佐藤 敦子	公募	出席	
8	佐藤 毅彦	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 教授	欠席	
9	塚田 久美	神奈川県立津久井養護学校 校長	出席	
10	中里 浩章	相模原市立小中学校PTA連絡協議会 副会長	出席	
11	永保 貴章	一般社団法人相模原市幼稚園・認定こども園協会 副会長	出席	
12	西出 利一	公募	出席	
13	秦野 玲子	RE Learning 代表	出席	副委員長
14	原田 康子	公募	出席	
15	藤井 智	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク 常務理事	出席	
16	星山 麻木	明星大学 教授	出席	
17	若林 由美	相模原市立小中学校PTA連絡協議会 会計	出席	

【関係者】

18	門川 秀樹	相模原市立横山小学校 校長	出席	
----	-------	---------------	----	--